

1 接触者健診(個別)

(1) 実施時期別受診率

平成25年2月末現在

登録年		直後(XP)			2か月後(ツ反・QFT)			6か月後			1年後			2年後		
		対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率
22年	総計	1220	1154	94.6%	734	706	96.2%	553	442	79.9%	572	452	79.0%	557	381	68.4%
	(再)喀痰塗抹陽性患者の接触者	863	824	95.5%	639	616	96.4%	477	382	80.1%	492	390	79.3%	478	338	70.7%
23年	総計	1013	956	94.4%	669	631	94.3%	427	340	79.6%	436	343	78.7%			
	(再)喀痰塗抹陽性患者の接触者	727	692	95.2%	548	519	94.7%	365	293	80.3%	374	297	79.4%			
24年	総計	1120	1053	94.0%	797	731	91.7%	408	215	52.7%						
	(再)喀痰塗抹陽性患者の接触者	807	767	95.0%	676	622	92.0%	345	191	55.4%						

○直後・2か月後健診・6か月後いずれにおいても、平成24年は23年と比べ受診率が低下している。
また、6か月後・1年後・2年後と期間が経つにつれ、受診率が低下している。

(2) 結核患者発見率

平成25年2月末現在

登録年		直後(XP)		6か月後		1年後		2年後	
		患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率
22年	総計	11	0.95%	3	0.68%	2	0.44%	3	0.79%
	(再)喀痰塗抹陽性患者の接触者	11	1.33%	3	0.79%	2	0.51%	3	0.89%
23年	総計	20	2.09%	2	0.59%	1	0.29%		
	(再)喀痰塗抹陽性患者の接触者	19	2.75%	2	0.68%	1	0.34%		
24年	総計	21	1.99%	2	0.93%				
	(再)喀痰塗抹陽性患者の接触者	21	2.74%	2	1.05%				

注) 発見率は健診時期別受診者数を母数として算出

○平成24年の患者発見率は、直後健診では2.0%、6か月後健診では0.9%であった。
塗抹陽性患者の接触者に限ると、直後健診では2.7%、6か月後健診では1.1%であった。

(3) LTBI治療適用者平成25年2月末現在

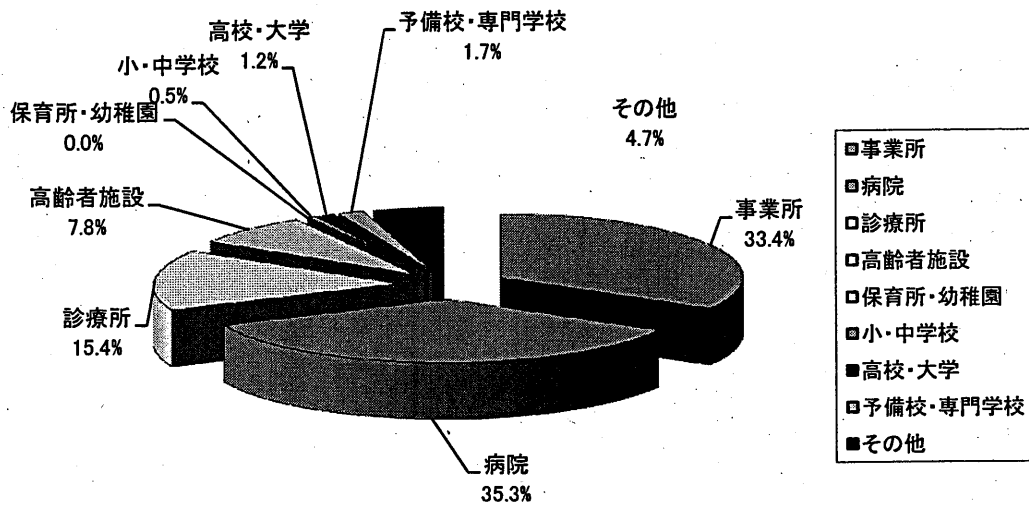
登録年		LTBI治療適用者数	LTBI治療適用率
22年	総計	121	17.1%
	(再)喀痰塗抹陽性患者の接触者	108	17.5%
23年	総計	106	16.8%
	(再)喀痰塗抹陽性患者の接触者	93	17.9%
24年	総計	140	19.2%
	(再)喀痰塗抹陽性患者の接触者	125	20.1%

注) LTBI治療適用率はツ反・QFT受診者数を母数として算出

○平成23年1月よりQFT検査は2Gから3Gに変更となり、平成23年4月より対象年齢が原則49歳以下から原則54歳以下に引き上げられている。LTBI治療適用者数、適用率ともに年々増加している。

2 接触者健診(集団)

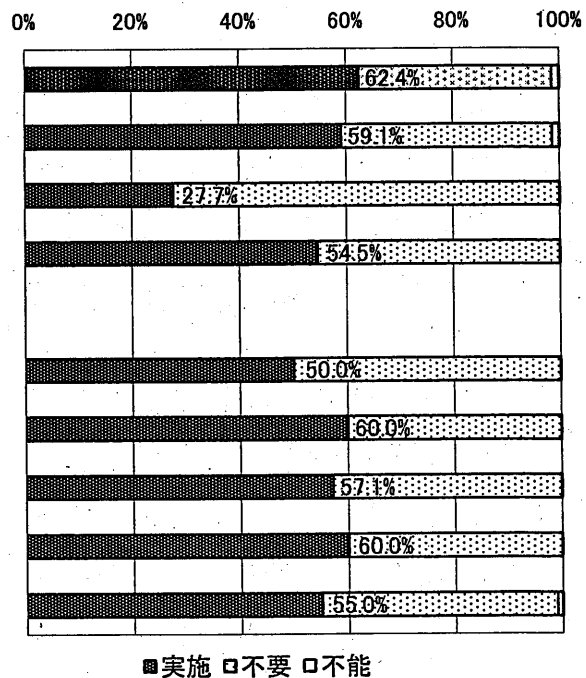
(1)検討対象集団の集団区分



- 検討依頼のあった集団の内訳をみると、医療機関(病院と診療所の和)が50.7%と半数以上を占め、平成23年度の47.8%より増加していた。小・中学校の検討依頼が2件含まれていた。

集団区分別検討結果

	実施	不要	不能	計
事業所	88	51	2	141
病院	88	59	2	149
診療所	18	47	0	65
高齢者施設	18	15	0	33
保育所・幼稚園	0	0	0	0
小・中学校	1	1	0	2
高校・大学	3	2	0	5
予備校・専門学校	4	3	0	7
その他	12	8	0	20
計	232	186	4	422



- 大阪市全体の実施率は平成23年度43.8%から24年度55.0%へと増加していた。集団区分別の平成23年度から24年度への実施率の推移をみると 事業所47.2%⇒62.4%、病院45.1%⇒59.1%、高齢者施設29.5%⇒54.5%と増加しており、診療所は30.6%⇒27.7%と減少していた。

(2) 実施時期別受診率

平成26年1月末現在

依頼年	直後(XP)			2か月後(ツ反・QFT)			6か月後			1年後			1年半後※			2年後		
	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率
21年	490	465	94.9%	743	736	99.1%	341	307	90.0%	372	314	84.4%	—	—	—	366	254	69.4%
22年	617	603	97.7%	815	792	97.2%	490	467	95.3%	485	448	92.4%	43	42	97.7%	494	427	86.4%
23年	697	641	92.0%	1343	1124	83.6%	640	536	83.8%	655	572	87.3%						
24年	619	588	95.0%	1418	1362	96.1%	294	256	87.1%									

注) 健診実施中等不明であった結果が判明することにより変動の可能性あり

※平成24年度より、順次1年半後健診を実施。

- 平成24年は平成23年に比べ、2か月後健診の対象者数は75名(5.6%)、受診者数238名(21.2%)増加している。一方6か月後健診では、対象者数・受診者数はそれぞれ346名(54.1%)、280名(52.2%)減少していた。

(3) 結核患者発見率

平成26年1月末現在

依頼年	発見 集団	直後		6か月後		1年後		1年半後		2年後	
		患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率	患者数	発見率
21年	3	3	0.65%	0	0.00%	3	0.96%	—	—	1	0.39%
22年	6	7	1.16%	1	0.21%	1	0.22%	4	9.52%	0	0.00%
23年	5	4	0.62%	1	0.19%	0	0.00%				
24年	8	12	2.04%	1	0.39%						

注) 発病者数はRFLP/VNTR不一致。他に感染源ありと判断した数を除く

発見率は健診時期別受診者数を母数として算出

【再掲 6か月後健診以降の患者発見率】

依頼年	発見 集団	対象者	患者数	発見率
21年	1	361	2	0.55%
22年	1	494	5	1.01%

注) 発見率は2年後まで追跡を要する対象者数(追跡不可を含む)を母数として算出
胸部X線検査による追跡対象者からの患者発見率を表している。

(4) LTBI治療適用者 平成26年1月末現在

依頼年	LTBI治療 適用者数	LTBI治療 適用率
21年	91	12.4%
22年	94	11.9%
23年	183	16.3%
24年	127	9.3%

注) LTBI治療適用率はツ反・QFT受診者数を母数として算出

- 平成24年は平成23年と比べ、LTBI治療適用者数、適用率ともに減少した。

1. BCG接種

予防

(1) 区別 BCGの接種状況 (平成24年度)

区	出生数 (平成24年)	BCG接種数			6か月未満 BCG接種率	1歳未満 BCG接種率
		総数	6か月未満	6か月から 1歳未満		
大 阪 市	23,339	21,142	20,598	544	88.3%	90.6%
北	1,006	910	878	32	87.3%	90.5%
都 島	911	875	854	21	93.7%	96.0%
福 島	789	716	707	9	89.6%	90.7%
此 花	666	592	570	22	85.6%	88.9%
中 央	813	607	589	18	72.4%	74.7%
西	987	830	809	21	82.0%	84.1%
港	667	634	621	13	93.1%	95.1%
大 正	453	423	413	10	91.2%	93.4%
天 王 寺	674	617	608	9	90.2%	91.5%
浪 速	584	480	467	13	80.0%	82.2%
西 淀 川	915	789	781	8	85.4%	86.2%
淀 川	1,629	1,445	1,414	31	86.8%	88.7%
東 淀 川	1,695	1,490	1,450	40	85.5%	87.9%
東 成	707	705	699	6	98.9%	99.7%
生 野	871	911	895	16	102.8%	104.6%
旭	687	630	619	11	90.1%	91.7%
城 東	1,513	1,315	1,270	45	83.9%	86.9%
鶴 見	1,327	1,242	1,199	43	90.4%	93.6%
阿 倍 野	897	812	789	23	88.0%	90.5%
住 之 江	1,020	884	852	32	83.5%	86.7%
住 吉	1,277	1,147	1,119	28	87.6%	89.8%
東 住 吉	961	979	963	16	100.2%	101.9%
平 野	1,764	1,567	1,500	67	85.0%	88.8%
西 成	526	542	532	10	101.1%	103.0%

※出生後、出生した区以外でBCG接種される児がいるため、
出生数の母集団と、BCG接種の母集団は異なっている。

- BCG接種率は、6か月未満では平成23年94.7から24年88.3%、1歳未満では平成23年96.5%から24年90.6%といずれも低下していた。月別の接種者数を23年度と比較すると、特に3月の減少が著しく、23年度1874人から24年度1247人へ627人減少していた。これは25年度4月から接種推奨時期が5から8か月へと変更されたため、5か月未満児が接種を控えたことが一因と考えられる。

平成24年 コッホ現象の報告について

1. 区別件数

	BCG接種者数	コッホ相談件数	コッホ疑い事例	コッホ確定事例	相談件数合計	相談割合
北	946	4			4	0.42%
都島	910	12			12	1.32%
福島	710	1			1	0.14%
此花	633	2			2	0.32%
中央	617	1			1	0.16%
西	891				0	0.00%
港	646				0	0.00%
大正	463				0	0.00%
天王寺	682				0	0.00%
浪速	478				0	0.00%
西淀川	877				0	0.00%
淀川	1500			1	1	0.07%
東淀川	1524	2			2	0.13%
東成	701				0	0.00%
生野	928	2	1		3	0.32%
旭	668	5	1		6	0.90%
城東	1353	1			1	0.07%
鶴見	1263	8	2	1	11	0.87%
阿倍野	803	5			5	0.62%
住之江	900	5	1		6	0.67%
住吉	1192				0	0.00%
東住吉	978	5	1		6	0.61%
平野	1647	4	1		5	0.30%
西成	542	1			1	0.18%
合計	21,852	58	7	2	67	0.31%

2. コッホ疑い事例の経過

<事例1>

BCG接種1日後	5日後	ツ反値(12日後)	2週間後	4週間後
発赤・硬結 が認められる	発赤・硬結減弱	$\frac{5 \times 4}{6 \times 5}$	発赤・硬結変化なし	発赤・硬結増強

<事例2>

BCG接種0日後	5日後	ツ反値(5日後)	2週間後	4週間後
発赤が認められる	発赤減弱	0×0	発赤減弱	発赤増強

<事例3>

BCG接種2日後	5日後	ツ反値(5日後)	2週間後	4週間後
発赤・硬結 が認められる	発赤・硬結減弱	2×2	発赤・硬結減弱	発赤・化膿増強 ・硬結変化なし

<事例4>

BCG接種1日後	6日後	ツ反値(14日後)	2週間後	4週間後
発赤が認められる	発赤反応継続	$\frac{3 \times 2}{11 \times 8}$ (0×0)	発赤変化なし	発赤増強 (正常な経過と判断)

<事例5>

BCG接種1日後	5日後	ツ反値(5日後)	2週間後	4週間後
発赤が認められる	発赤反応継続	0×0	発赤反応継続	発赤減弱 (接種後通常反応)

<事例6>

BCG接種2日後	7日後	ツ反値(7日後)	2週間後	4週間後
発赤が認められる	発赤反応やや減弱	5×5	発赤減弱	発赤増強・痂皮

<事例7>

BCG接種2日後	5日後	ツ反値(8日後)	2週間後	4週間後
発赤・硬結・化膿 が認められる	発赤・化膿減弱、 硬結変化なし	$\frac{0 \times 0}{8 \times 8}$ (0×0)	発赤・化膿は減弱、 硬結変化なし	発赤・化膿・硬結 変化なし

3. コッホ確定事例の経過

<事例1>

BCG接種1日後	5日後	9日後	ツ反値(12日後)	2週間後	4週間後
発赤・化膿 が認められる	発赤継続、 化膿減弱	発赤・硬結 ・化膿増強	$\frac{3 \times 3}{14 \times 12}$	発赤・硬結 ・化膿減弱	発赤・硬結 ・化膿減弱

<事例2>

BCG接種2日後	4日後	ツ反値(8日後)	2週間後	4週間後
発赤が認められる	発赤継続、 化膿認められる	$\frac{8 \times 7}{16 \times 9}$ (0×0)	発赤・化膿増強、硬結 変化なし	発赤減弱、硬結・化膿 変化なし

2. 潜在性結核感染症治療者の状況

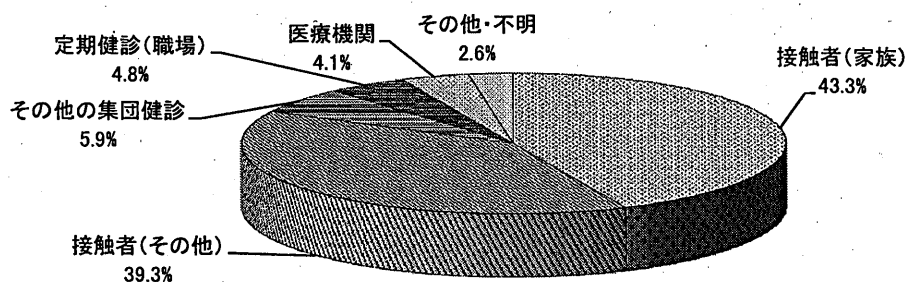
予 防

※ 国において潜在性結核感染症治療の年齢制限が平成19年8月に撤廃され、大阪市では平成20年5月からQFT検査を個別健診にも導入している。

(1) 区別 潜在性結核感染症治療対象者数（平成24年）

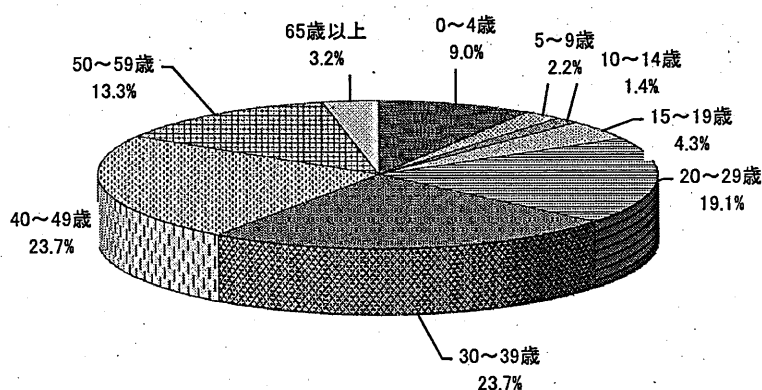
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	(人)
大 阪 市	25	6	4	12	19	34	34	32	38	28	24	13	4	5	278
北	1					2	1	1	2	1	1		1		10
都 島	1						1	1	1	1					5
福 島						1			1					1	3
此 花		1				3			1	1					6
中 央	1					4	1		1	1					8
西 港	3					2	1	2	2	1				1	12
港	2					1		1		1	1		1		7
大 正											1				1
天王寺					1	2		1		2		1			7
浪 速							4	1	2		1				8
西淀川					1	2	1	4		1	1	1			11
淀 川	2		1	2	1		5		2		2	1		1	17
東淀川	3	1			3	1	5	5		3	2	3		1	27
東 成							1	1	1	1		1			5
生 野				1	1	1	4		3	4	2				16
旭		2						1	1			1			5
城 東				6	3	2		1	2	1	3	1			19
鶴 見	3		1			4		1	2	1			1		13
阿倍野						2	1	1	1		1				6
住之江	6		1	1	4		2	5	3	1	1	1		1	26
住 吉	1				2	1	3	4	1	2					14
東住吉				1	2	4	1		1	2	1	2	1		15
平 野	1	2	1	1	1	2	3	2	8	1	4	1			27
西 成	1								3	3	3				10

(2) 発見方法別 潜在性結核感染症治療者の割合



○ 接触者健診（個別と集団の和）は、平成23年84.4%から24年80.2%へと減少した。

(3) 年齢階級別 潜在性結核感染症治療者の割合



○ 50歳以上の割合は、平成23年16.4%から24年16.5%へと推移していた。

